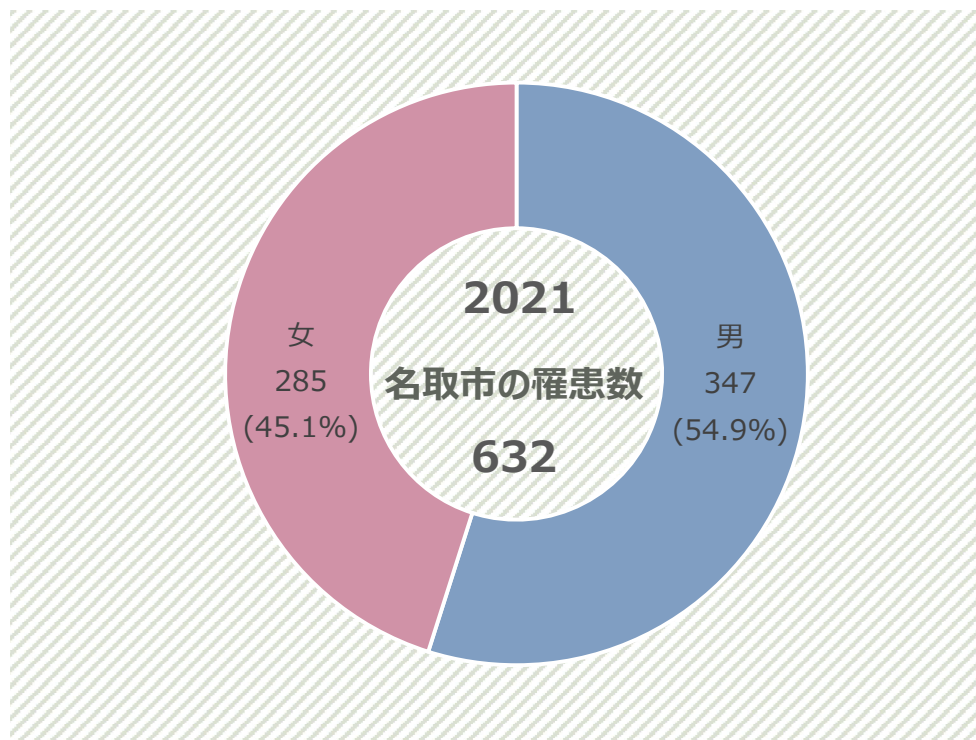


名取市のがん罹患

令和3(2021)年集計

罹患数



※上皮内がんを含む（以下、図表のすべてで同じ）

2021年に名取市で新たにがんと診断された件数

男性 347 件
女性 285 件

男性は女性よりも多く、全体の過半数を占めていました。部位別では、男性では、大腸、前立腺、肺、胃、悪性リンパ腫の順に多く、女性では、乳房、大腸、子宮、胃、肺の順に多くなっていました。

部位別にみた罹患の多い順

	1	2	3	4	5
男性	大腸	前立腺	肺	胃	悪性リンパ腫
女性	乳房	大腸	子宮	胃	肺

出典

がん登録等の推進に関する法律 第19条に基づき、宮城県立がんセンターが申請し、提供を受け集計したもの。

名取市のがん罹患 令和7年10月

編集・発行：宮城県立がんセンター

連絡先：〒981-1239

宮城県名取市愛島塩手字野田山47-1

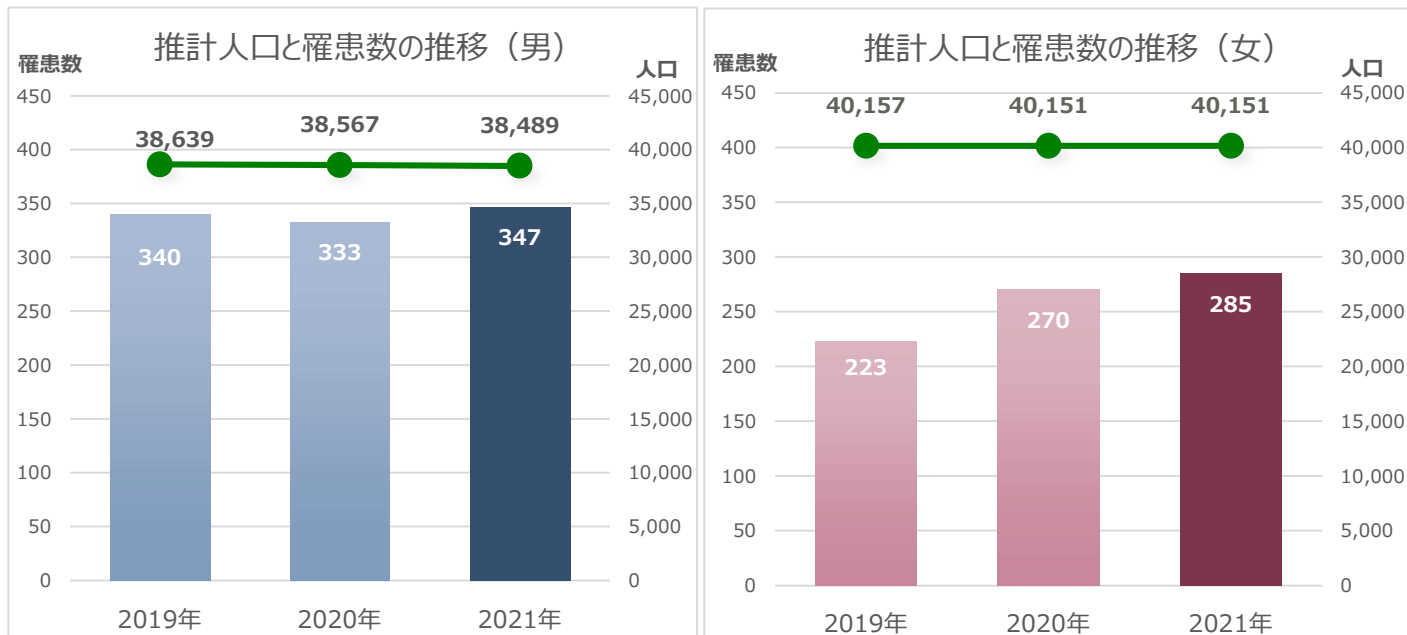
T E L : 022-796-3624

E-mail : registry@miyagi-pho.jp

推移

●男性では、340人前後で推移し、女性では、増加傾向にあります。

推計人口…国勢調査による人口を基に住民基本台帳から得た人口の増減を加減して算出した人口です。

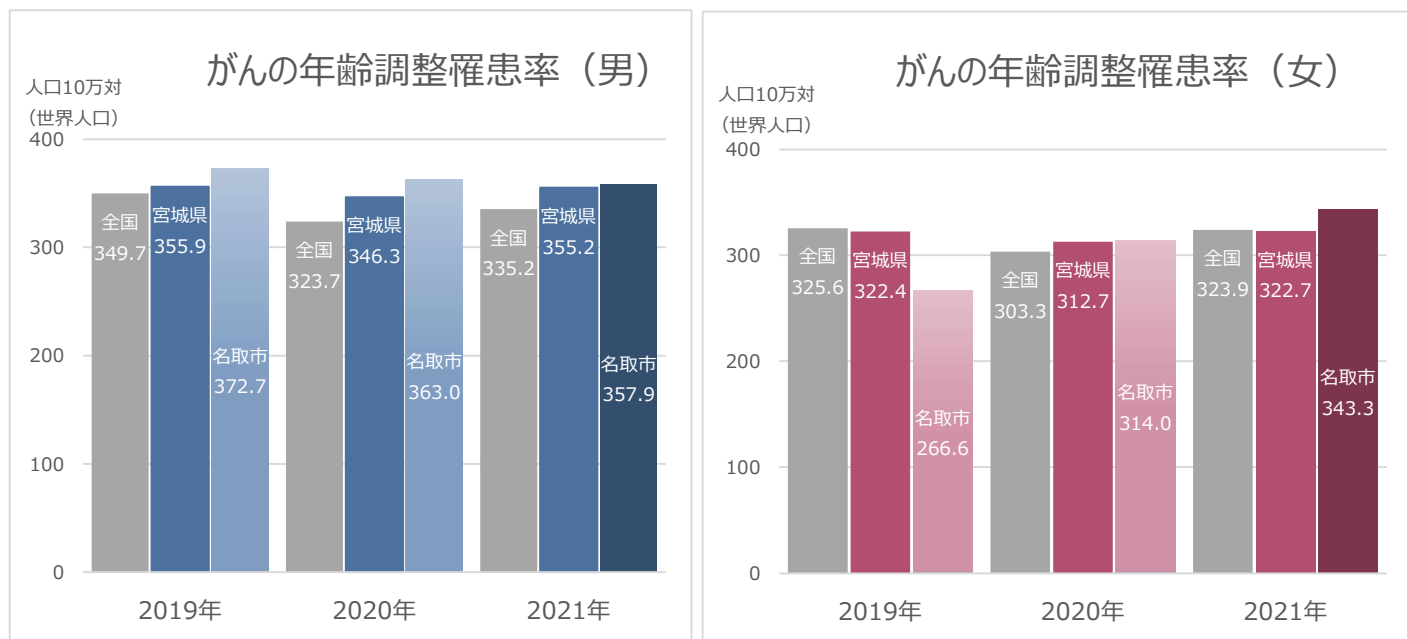


●男性では、全国や宮城県よりも高い値で推移しています。女性では、2019年では全国や宮城県よりも低い値でしたが、2020年以降、全国や宮城県よりも高い値になっています。

出典 全国：厚生労働省「全国がん登録罹患数・率報告」

宮城県：宮城県のがん罹患～宮城県がん登録 2021年（令和3年）集計～

年齢調整罹患率で比較する理由…がんは高齢者に多いため、単純に人口で割った罹患率で比較した場合、高齢化率の高い地域で高い値になります。そのため、がんについて地域比較を行うときは、同じ年齢構成のモデル人口に置き換えた年齢調整罹患率を計算して比較します。

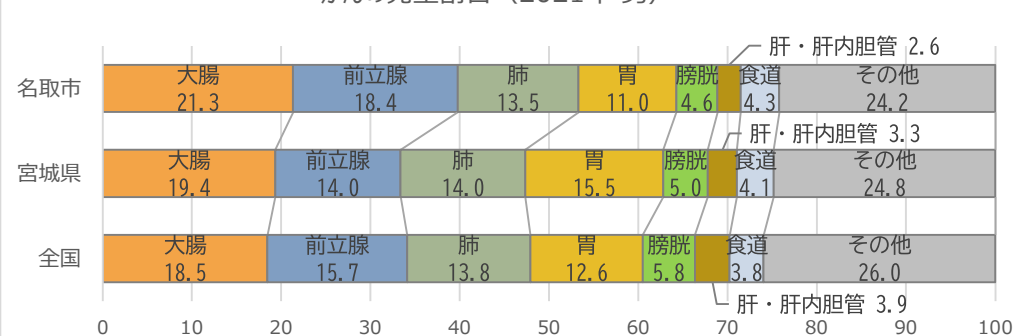


がんの部位別罹患数

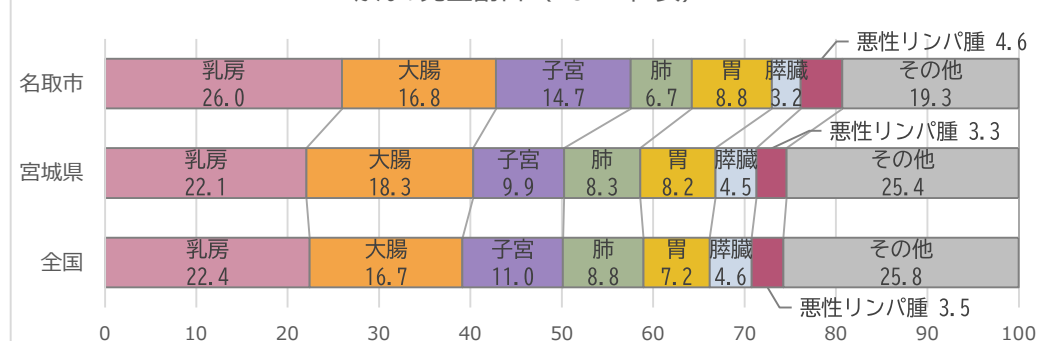
がんの部位別罹患数（2021年）

部位	ICD-10	男		女	
		罹患数	%	罹患数	%
口腔・咽頭	C00-C14	8	2.3	2	0.7
食道	C15 D001	15	4.3	2	0.7
胃	C16	38	11.0	25	8.8
大腸（結腸・直腸）	C18-C20 D010-D012	74	21.3	48	16.8
肝・肝内胆管	C22	9	2.6	4	1.4
胆のう・胆管	C23-C24	5	1.4	4	1.4
膵臓	C25	15	4.3	9	3.2
喉頭	C32	1	0.3	0	0.0
肺	C33-C34 D021-D022	47	13.5	19	6.7
皮膚	C43-C44 D030-D049	1	0.3	3	1.1
乳房	C50 D05	0	0.0	74	26.0
子宮	C53-C55 D06	-	-	42	14.7
卵巣	C56	-	-	11	3.9
前立腺	C61	64	18.4	-	-
膀胱	C67 D090	16	4.6	4	1.4
腎・尿路（膀胱除く）	C64-C66, C68	12	3.5	4	1.4
脳・中枢神経系	C70-C72	1	0.3	2	0.7
甲状腺	C73	3	0.9	8	2.8
悪性リンパ腫	C81-C85, C96	18	5.2	13	4.6
多発性骨髄腫	C88, C90	2	0.6	1	0.4
白血病	C91-C95	8	2.3	3	1.1
その他	上記以外	10	2.9	7	2.5
全部位		347	100	285	100

がんの発生割合（2021年 男）



がんの発生割合（2021年 女）



男性

●男性に多いがんは、多い順に大腸、前立腺、肺、胃の4つで、男性全体の6割以上を占めました。

女性

●女性に多いがんは、多い順に乳房、大腸、子宮、胃、肺の5つで、女性全体の7割以上を占めました。

全国・宮城県との比較

●男性では、全国や宮城県と比べて、大腸、前立腺、食道の割合が高く、肺、胃、膀胱、肝・肝内胆管の割合が低くなっていました。

●女性では、全国や宮城県と比べて、乳房、子宮、胃、悪性リンパ腫の割合が高く、肺、膵臓の割合が低くなっていました。

年齢階級別罹患数

2021	男性	0-14歳	15-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
口腔・咽頭	8	0	0	0	0	0	3	4	1
食道	15	0	0	0	0	0	6	6	3
胃	38	0	0	0	1	2	7	17	11
大腸（結腸・直腸）	74	0	0	0	3	10	21	23	17
肝・肝内胆管	9	0	0	0	0	1	2	1	5
胆のう・胆管	5	0	0	0	0	0	1	2	2
膵臓	15	0	0	0	0	0	2	7	6
喉頭	1	0	0	0	0	0	0	1	0
肺	47	0	1	0	2	2	9	21	12
皮膚	1	0	0	0	0	0	0	0	1
乳房	0	0	0	0	0	0	0	0	0
子宮（頸部・体部）	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卵巣	-	-	-	-	-	-	-	-	-
前立腺	64	0	0	0	1	4	19	30	10
膀胱	16	0	0	0	0	1	6	7	2
腎・尿路（膀胱除く）	12	0	0	0	0	2	3	2	5
脳・中枢神経系	1	0	0	0	0	1	0	0	0
甲状腺	3	0	1	0	0	0	0	2	0
悪性リンパ腫	18	1	1	0	1	1	3	7	4
多発性骨髄腫	2	0	0	0	0	0	0	1	1
白血病	8	0	0	2	1	1	0	2	2
その他	10	0	0	0	1	1	4	1	3
	347	1	3	2	10	26	86	134	85

多

少

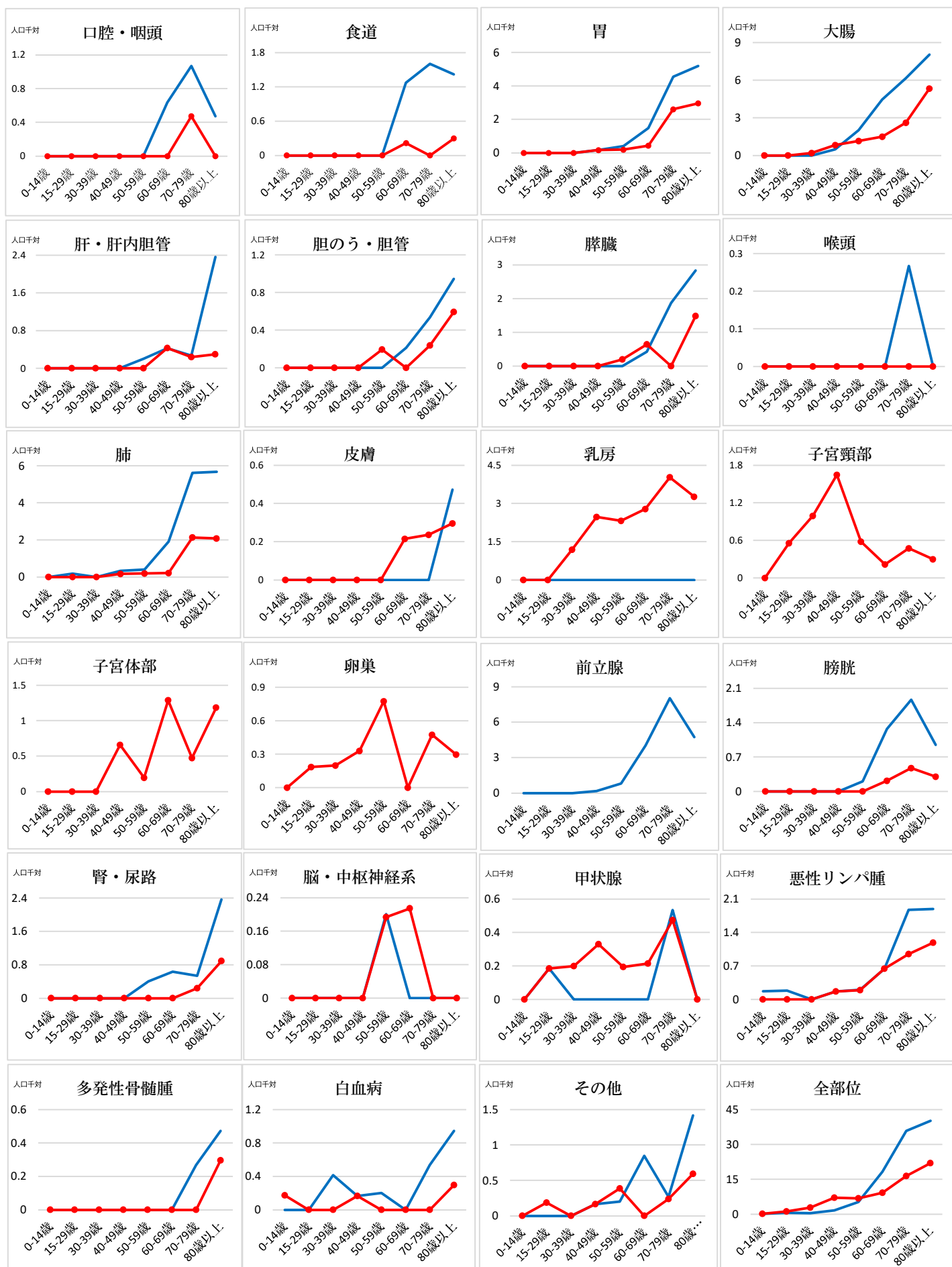
2021	女性	0-14歳	15-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
口腔・咽頭	2	0	0	0	0	0	0	2	0
食道	2	0	0	0	0	0	1	0	1
胃	25	0	0	0	1	1	2	11	10
大腸（結腸・直腸）	48	0	0	1	5	6	7	11	18
肝・肝内胆管	4	0	0	0	0	0	2	1	1
胆のう・胆管	4	0	0	0	0	1	0	1	2
膵臓	9	0	0	0	0	1	3	0	5
喉頭	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肺	19	0	0	0	1	1	1	9	7
皮膚	3	0	0	0	0	0	1	1	1
乳房	74	0	0	6	15	12	13	17	11
子宮（頸部・体部）	42	0	3	5	14	4	7	4	5
卵巣	11	0	1	1	2	4	0	2	1
前立腺	-	-	-	-	-	-	-	-	-
膀胱	4	0	0	0	0	0	1	2	1
腎・尿路（膀胱除く）	4	0	0	0	0	0	0	1	3
脳・中枢神経系	2	0	0	0	0	1	1	0	0
甲状腺	8	0	1	1	2	1	1	2	0
悪性リンパ腫	13	0	0	0	1	1	3	4	4
多発性骨髄腫	1	0	0	0	0	0	0	0	1
白血病	3	1	0	0	1	0	0	0	1
その他	7	0	1	0	1	2	0	1	2
	285	1	6	14	43	35	43	69	74

多

少

年齢階級別罹患率

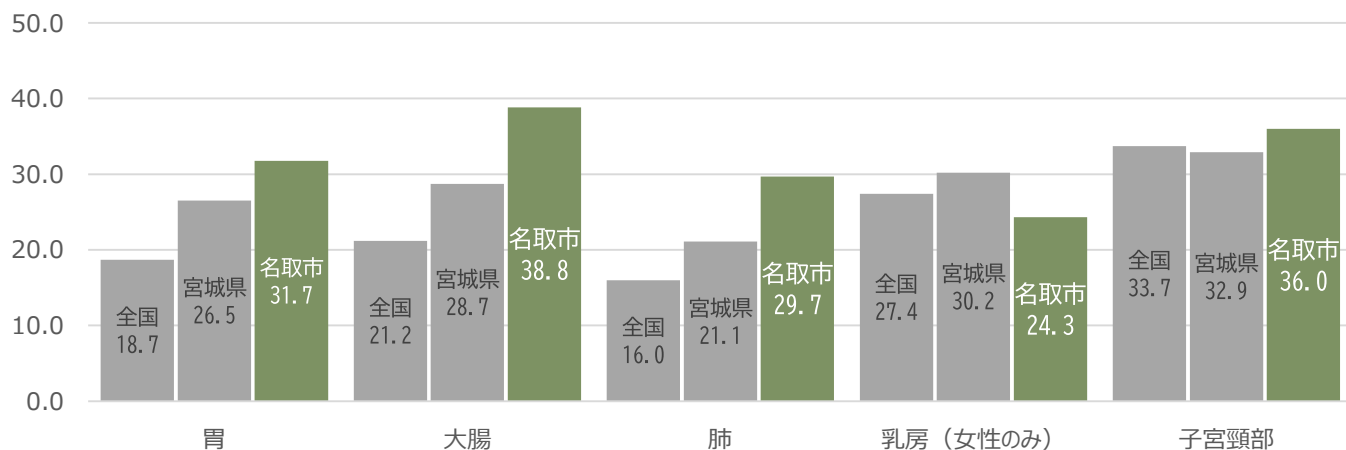
— 男性 — 女性



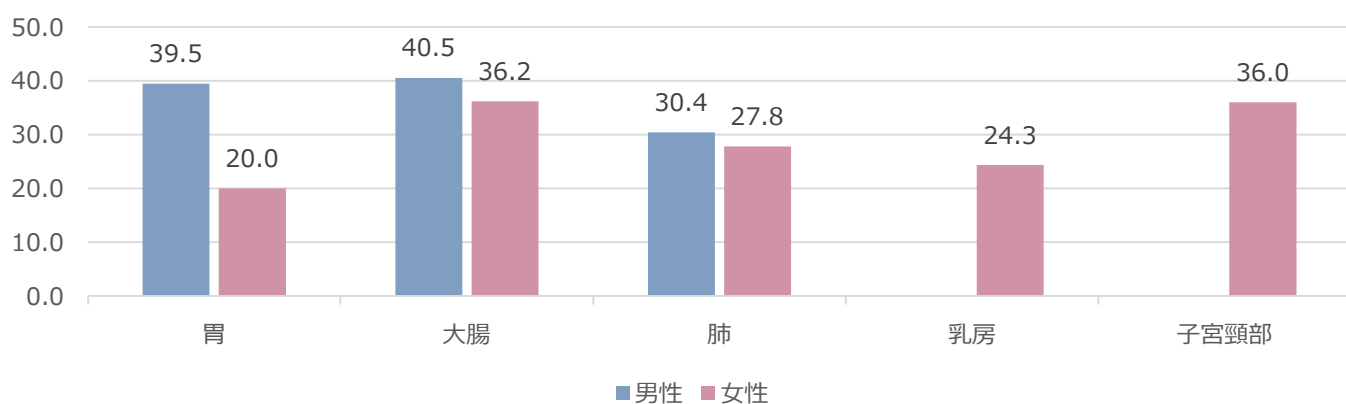
がんの検診発見割合

●乳房を除く4つの部位（胃、大腸、肺、子宮頸部）で、がん検診等（健康診断・人間ドックを含む）で発見された割合が全国や宮城県よりも高くなっていました。男女別では、胃、大腸、肺で男性で高い値でした。

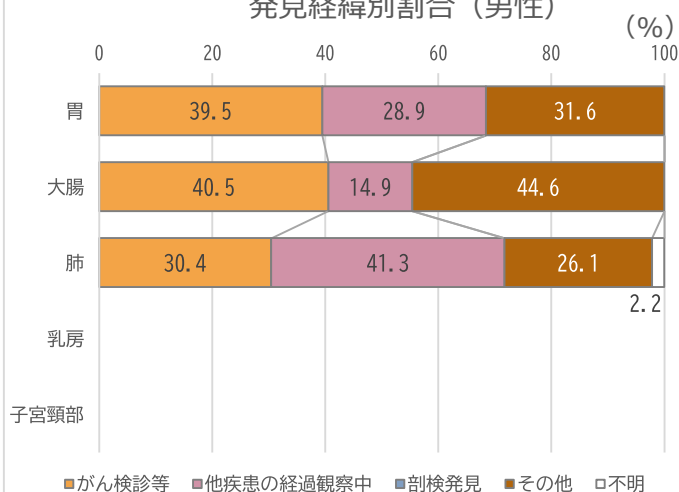
がんの検診発見割合（2021年）



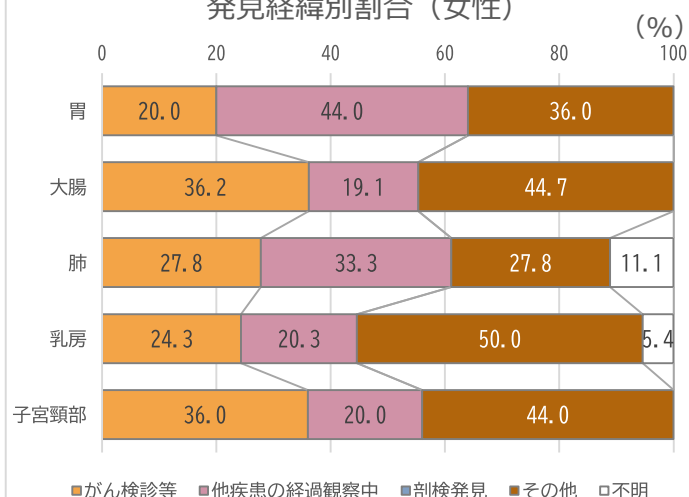
がんの検診発見割合（男女別）



発見経緯別割合（男性）

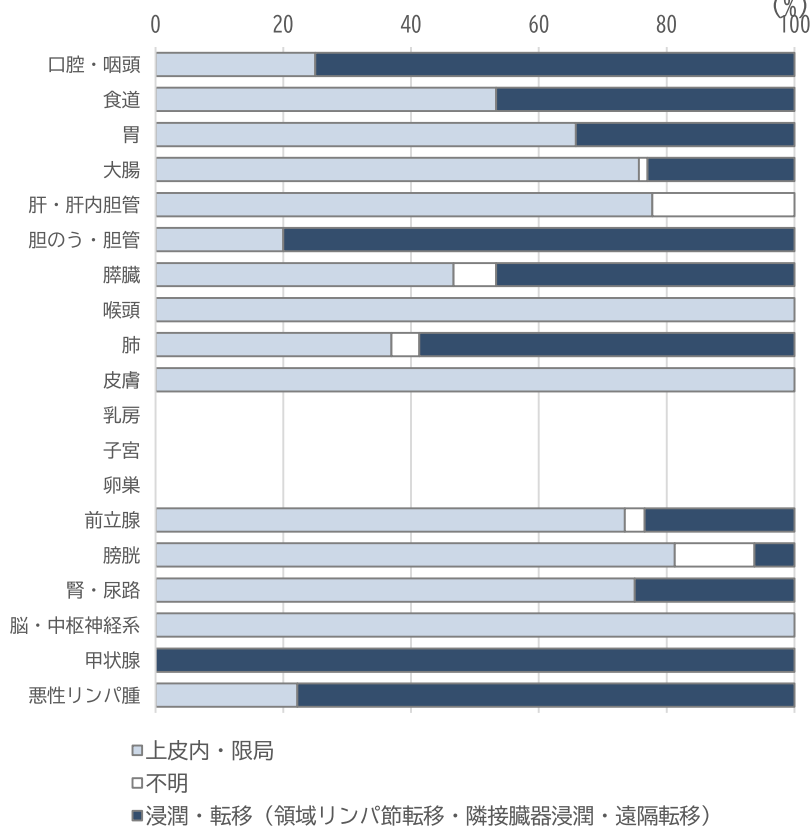


発見経緯別割合（女性）



進展度

がんが発見されたときの進み具合（2021年 男）



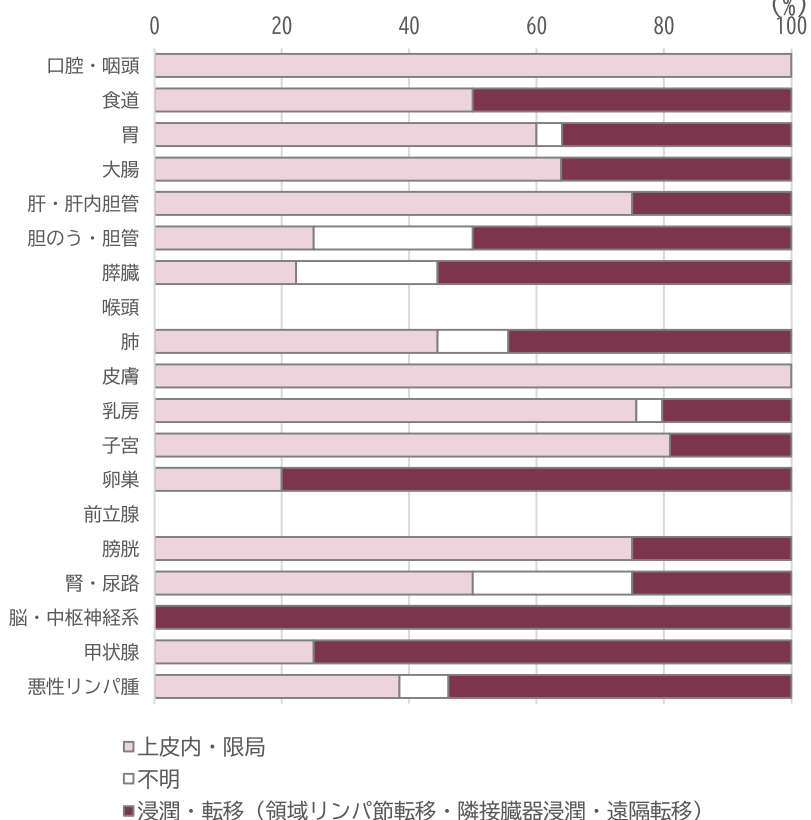
男性

●食道、胃、大腸、肝・肝内胆管、喉頭、皮膚、前立腺、膀胱、腎・尿路、脳・中枢神経系で、早期のがんが多くなっていました。一方、口腔・咽頭、胆のう・胆管、肺、甲状腺、悪性リンパ腫では、進んだ状態のがんが多くなっていました。

女性

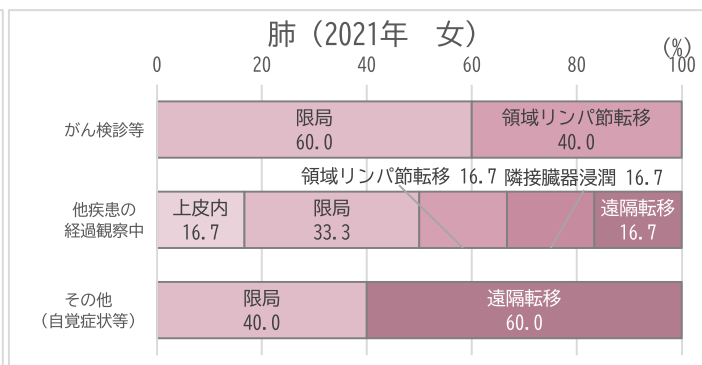
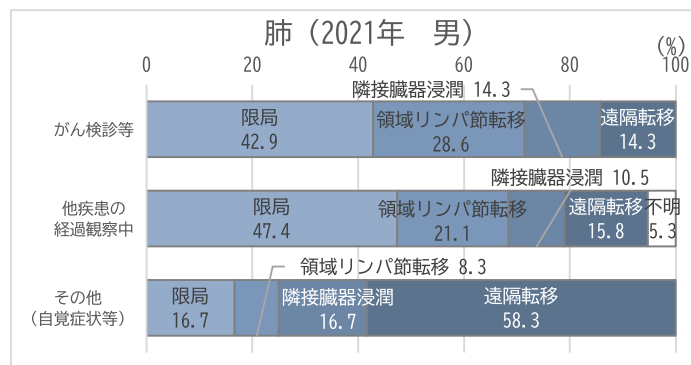
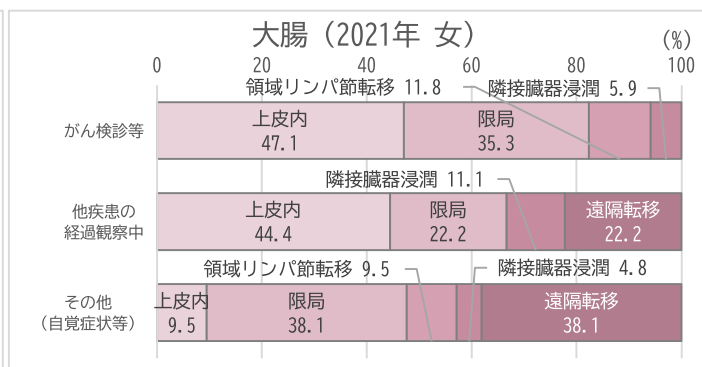
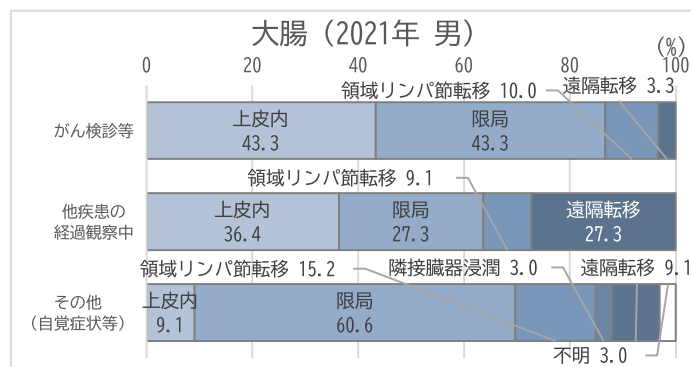
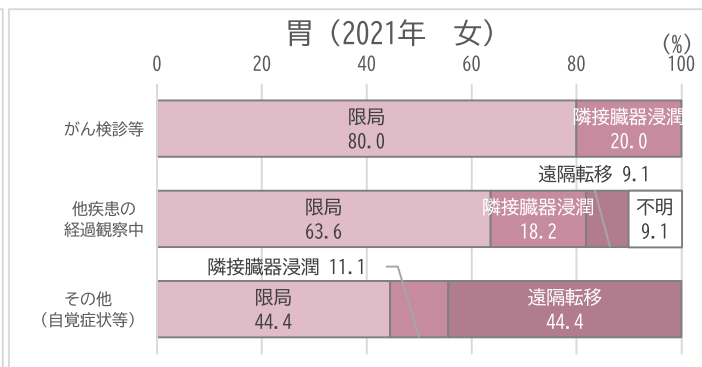
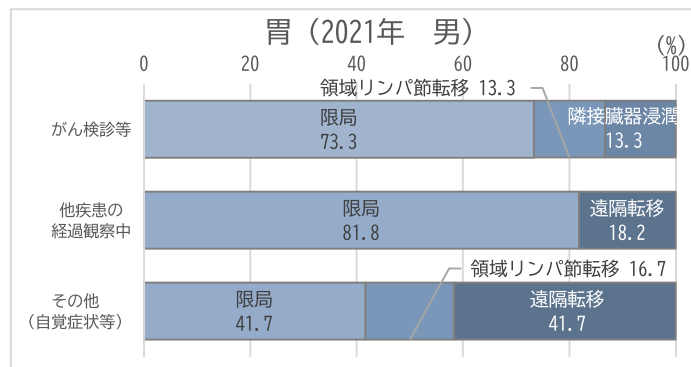
●口腔・咽頭、胃、大腸、肝・肝内胆管、皮膚、乳房、子宮、膀胱で、早期のがんが多くなっていました。一方、膵臓、卵巣、脳・中枢神経系、甲状腺、悪性リンパ腫では、進んだ状態のがんが多くなっていました。

がんが発見されたときの進み具合（2021年 女）



進展度…がんが発見されたときの進み具合のことです。病院では「ステージ」が使われますが、進展度は、これをもう少しわかりやすくしたものです。進展度が上皮内または限局のときは、がんが臓器の表面や臓器内に限局している状態で、比較的早期の状態です。一方、浸潤・転移のときは比較的進んだ状態になります。

がんの発見経緯と進展度



●がん検診は、がんの早期発見を目的に実施されています。男性の大腸、女性の大腸、乳房では、がん検診等で発見された方は、他と比べて早期に発見された方の割合が高くなっていました。

